



平成23年8月30日

～エアゾール缶使用時の引火に注意～

8月に練馬区において、暑さ対策のために冷却スプレーを噴射した後、タバコを吸うためにライターを点火したところ、滞留していたガス(冷却スプレーの噴射剤)に引火し火災となり、けが人が発生する事案がありました。

今年の夏は東日本大震災の影響による「節電・暑さ対策」のために、瞬間冷却剤・制汗剤などの様々なエアゾール缶が例年より多くでまわっています。とても便利なエアゾール缶でも不適切な使用方法により火災や事故が発生しています。

日常生活で頻繁に使われているエアゾール缶の危険性を再度認識し、正しく利用しましょう。

「エアゾール缶等の危険性の理解不足から発生している。」という特徴があります！」

- ▶ エアゾール缶の噴射剤には可燃性ガスを使用しているものが多い
エアゾール缶に起因した火災は、エアゾール缶の中に可燃性ガスが含まれているという危険性を正しく理解していないことや、注意書きに基づく正しい使用方法などを遵守していないことが主な要因です。
- ▶ 不適正な使用・保管・廃棄が原因
「厨房器具や暖房器具の側で噴射した」、「厨房器具や暖房器具の側に置いていた」、「使い切らずにエアゾール缶等を捨てた」、「厨房器具や暖房器具などの側で廃棄のため穴を開けた」といった不適正な使用・保管・廃棄が火災や事故の原因となっています。
- ▶ 火災は冬季、事故は夏季に多く発生
エアゾール缶による火災は1月・12月に集中して発生しています。事故にあっては、9月に最も多く発生しています。
- ▶ 死傷者の発生しやすい火災
清掃車以外のエアゾール缶等に起因した火災では、火災1件あたり0.83人の死傷者が発生しており、全火災での死傷者発生状況と比較しても死傷者が発生しやすい傾向にあります。



病院に行ったほうがいいのか、又は、救急車を呼んだほうがいいのか、判断に迷った場合には「東京消防庁救急相談センター（#7119）」へご相談ください。